

平成28年度 教育事業 海からのメッセージ

～錦江湾縦断110kmの旅。カヌーと徒歩で、めざせ佐多岬！～

- 1 趣 旨 水深200mの深海をもつ雄大な鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、異年齢との交流を図りながら自然の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 平成28年8月6日（土）～8月12日（日） 6泊7日
- 3 参加対象 小学5年生～高校生（不登校など心に悩みをもつ児童生徒を含む。）
- 4 募集定員 30人
- 5 参加者 30人（小学生16人 中学生12人 高校生2人）
- 6 指導者 外部講師3人 国立大隅青少年自然の家7人 ボランティア10人
- 7 日 程

日 時	移動区間（移動方法）	宿泊場所	移動距離
8月 6日（土）	国分海浜公園～境小学校（カヌー）	境小学校（体育館泊）	約13km
8月 7日（日）	境小学校～牛根港～協和小学校 （カヌー→徒歩）	協和小学校（体育館泊）	約18km
8月 8日（月）	海潟漁港～鹿屋体大海洋スポーツセンター（カヌー）	新城海の家（テント泊）	約24km
8月 9日（火）	鹿屋体大海洋スポーツセンター～根占港（カヌー）	根占みなと公園（テント泊）	約18km
8月10日（水）	根占港～佐多山村交流施設（徒歩）	佐多山村交流施設泊	約20km
8月11日（木）	佐多山村交流施設～旧大泊小学校 （徒歩）	旧大泊小学校（テント泊）	約12km
8月12日（金）	旧大泊小学校～佐多岬（徒歩） ゴール後バスで新城海の家へ移動		約5km 新城海の家 12:00 解散

8 事業運営について

- (1) 6泊7日の期間中、参加者がゴールに向かって意欲的に活動できるように、110kmという数値的な目標とゴールが本土最南端の佐多岬という地理的な目標を設定した。
- (2) 各市町村（霧島市、垂水市、鹿屋市、錦江町、南大隅町）や各関係機関（各警察署、消防



署、漁業協同組合、小学校、病院、海上保安部）と連携を密にし、活動中の安全対策を万全にし、活動を行った。

(3) 異年齢や男女比を考慮しながら班構成をし、班長を中心に目標に向かって協力したり、自分の役割を果たしたりできるようにした。また、各班に班付きリーダー（ボランティア）を2人ずつ配置し、個に応じた支援が手厚くできるように工夫した。

(4) 今回は、カヌーで6.5km、徒歩で4.5kmの活動に重きを置き、炊飯活動やその他の活動は簡単にできる内容にした。

9 事業の実際

(1) 初日の午前中は、国分海浜公園体育館において、出会いのつどいや班編成、カヌーの漕ぎ方や安全、健康管理に関する学習を行った。初めてカヌーに乗る参加者が多く、陸上でしっかりと漕方指導をした。午後からは実際のスタートで、約1.3kmを移動した。天候の影響で、2時間遅れのスタートとなった。初めてのカヌーにうまく漕げない場面も多々見られたが、全員が1.3kmを達成できた。長い距離を集中的に漕ぐことで、カヌーの漕方やこれからの活動の見通しを持たせることができた。

(2) 2日目は、カヌーで8.5km、徒歩9.5kmの計18kmを移動した。2日目ということで、カヌーの漕ぎ方もだいぶ慣れてきた。班を中心にお互い声掛けや協力をする姿が見られるようになってきた。途中から徒歩に変わったが、カヌー以上に班行動が明確で、班のまとまりを感じる場面となった。全員が18kmを達成できた。

(3) 3日目は、今回最長距離の24kmをカヌーで移動する計画だった。天候や海上の状況も良く、また参加者の漕方も上達してきて、全体が隊列をしっかりと組んで進めるようになってきた。長い距離と3日目という疲れから、船酔いをする参加者も出たが、周りが協力したり、声をかけ合ったりしながら、全員が24kmを達成できた。

(4) 4日目は、カヌー最終日で、18kmを移動した。しっかりと隊列を組み、予定時間よりも早く進むことができた。途中でイルカの群れに会ったり、錦江湾の景色や自然を鑑賞したりしながらスムーズにゴールできた。カヌーで6.5km達成できたことで、参加者の気持ちにも自信が出てきたように感じられた。

(5) 5日目は、徒歩で約20kmを歩いた。スタートしたときは、カヌーと違って班の仲間やリーダーと会話がいつでもできて、



楽しい雰囲気だった。しかし、10kmを過ぎたころから厳しい日差しと暑さ、今までの疲労から徐々に会話も少なくなり、ペースも落ちてきた。班付きリーダーの声掛けや休憩等を取りながら全員が20kmを歩くことができた。

(6) 6日目は、徒歩で12kmを歩いた。前日よりも距離は短かったが、アップダウンが激しく、厳しい道のりだった。それでもゴールが近づいてきているという感覚からか、みんな元気に歩くことができた。この日は最後の宿泊になるので、夕食は班を中心にバーベキューを楽しんだ。また、夜はキャンプファイヤーでの交流を通して、今までの活動の振り返りや参加者同士の絆を深め、最終日への意識を高めることができた。

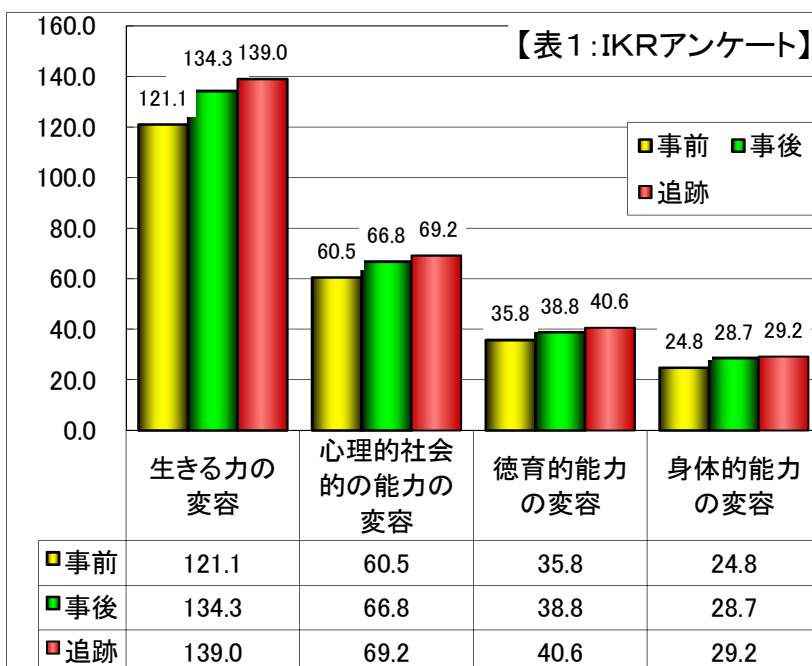
(7) 最終日は、佐多岬まで約5kmを歩いた。今までの活動を振り返りながら1歩1歩踏みしめてゴールを目指した。全員が予定通り佐多岬にゴールすることができ、達成感を味わうことができた。その後新城海の家へ移動し、解散式を行った。代表の学生は、7日間の苦労や仲間の大切さ、達成できた喜びやスタッフへの感謝の意を述べた。また、班付きリーダーからも参加者へ心に残る言葉を送った。

(8) 毎日、参加者就寝後スタッフミーティングを実施し、班活動の状況や子供たちの様子など意見を出し合い、共通理解を図った。また、班付きリーダーは、参加者が提出する活動の記録をチェックし、励ましの言葉やアドバイスなど個に応じた支援を行った。

10 アンケート結果

(1) IKRアンケート結果

生きる力の変容を見ると、事前から事後にかけて13.2ポイント、事前から追跡（実施から2カ月後）で17.9ポイント向上し、有意差が見られた。【表1】その中でも「先を見通して、自分で計画を立てられる」（視野・判断）、「誰にでも話しかけることができる」（明朗性）、「洗濯機がなくても、手で洗濯できる」（野外技能・生活）の内容に大きな向上が見られた。6泊7日という長期宿泊体験及び110kmという長い距



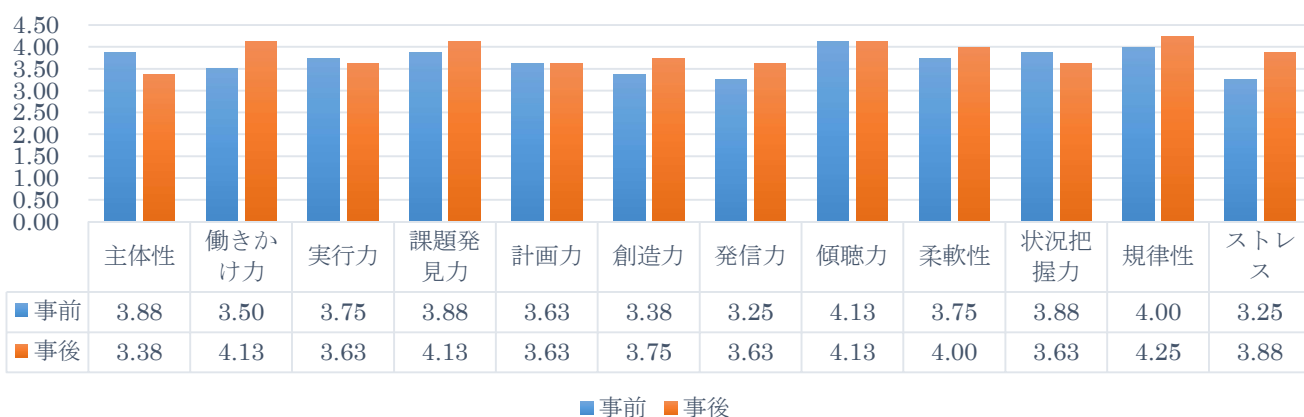
離を進む活動を通して、見通しを持つことや仲間との関係、生活能力が向上したと考えられる。

(2) ボランティアの社会人基礎力アンケート

社会人基礎力では、参加者へ働きかける力や課題を発見し、解決方法を考える力、ストレスコントロール力は向上傾向が見られたが、主体性や実行力、状況把握力では減少傾向が見られた。【表2】6泊7日という長期宿泊体験を通して、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組むことや目標を設定し確実に行動する力、自分がどのような役割を果たすべきかなど参加する前に比べて思っていた以上に難しかったと振り返っていることが分かる。



社会人基礎力【表2】



11 参加者・ボランティア・保護者の感想

(1) 参加者の感想

- ゴールした時の達成感が大きく、今まで漕いだり、歩いたりしてきて本当に良かったと思った。仲間と協力したことや学んだことがこれからの生活や勉強に生かせるらいいと思う。仲間やリーダーに「ありがとう」のメッセージを送りたい。
- ゴールした時は、うれしいような少しさみしいような感じがした。もう少しでこのメンバーとはお別れ。なんかすごく短かった気がする。このメンバーと共に助け合い、笑い、佐多岬でゴールできたので、悔いはない。とてもいい週間だった。ありがとうございます。



(2) ボランティアの感想

- 今回の「海からのメッセージ」では、自分がどのようなサポートや声掛けをすると、参加者にとって充実した1週間になるのかを考えることが難しく、なかなかうまくいかないことも多々ありましたが、少しずつみんなが成長していく姿を見ることができてうれしかったです。長期間のイベントだったので、正直参



加するかとても迷いましたが、普段の大学での生活では絶対に体験することができない充実感を得ることができ、今では参加することができて本当に良かったと思っています。

- 東京から「海からのメッセージ」に参加させていただき、誠にありがとうございました。私がどれだけ貢献できたのかは分かりませんが、子供たちと心に残る7日間を過ごすことができたことを嬉しく思います。また、私自身とても楽しい時間を過ごさせていただき、今後もこのようなボランティアをやりたい、続けていきたいと思っています。私事ですが、この7日間のすばらしい体験が私の進路を決めるきっかけになり、アメリカのアラスカの学校で自然体験活動を多く取り入れた教育を実践するような仕事・研究をすることになりました。「海からのメッセージ」に携わらせていただき、本当にありがとうございました。

(3) 保護者の感想

- 何より子ども本人が「とても楽しかった。すごく良かった。」と目をキラキラさせて話をしてくれたので、本当に良い体験ができたのだと嬉しく思いました。異年齢の交流も兄弟がいない息子にとって勉強になったようですし、精神的にも自分を鍛えるよい機会になったようです。本当に素晴らしい事業だと思いました。親子共々、もっとこれまでも参加希望するべきだったと話すことでした。ボランティアで参加してくださったリーダーの方が、最終日に一人一人にアドバイスや今後の課題等を話してくださったとの事、子供をよく見てくださったのだなあと感じました。本当にありがとうございました。

12 成 果

- 110kmという長くて、苦しい道のりを仲間の協力や支援はもちろんだが、自分の力でゴールできたという達成感を味わうことができた。このことは「やればできる」という大きな自信につながった。
- 6泊7日という長期宿泊体験で、仲間との協力性や自分から進んで行く主体性、相手の立場に立って行動する思いやりの心を培うことができた。また、寝食を共にする仲間との絆を深めることができた。
- 毎日のミーティング等で、子供たちの様子や健康状態などスタッフ全員で共通理解をし、気になる参加者に対しては全員で対応することができた。

